

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第62号 2023年7月15日発行

～食べられる野草クイズ～

答は、本ページの下にあります

ご存じですか？ 身近なところに意外と美味しい野草がありますよ。
以下は夏の食べられる野草です。名前を当ててください。

(1)スペリヒュウ



(2)オオバコ



(3)ツユクサ



(4)ドクダミ



＜答＞

(1)スペリヒュウ：

夏の開花前の若葉や茎の先のやわらかい部分を選んで収穫する。茹でてからおひたし、炒め物に。オメガ3が豊富で解毒、消炎、抗菌作用もあるとされる。

(2)オオバコ：

若芽や若葉を選んで摘み取り、少し強めに下茹でをしてアク抜きする。天ぷら、おひたし、和え物、油炒めなどが定番。種や葉を乾燥させて煎じたものを飲むと、咳止めや便秘対策になるとされる。

(3)ツユクサ：

葉や茎が柔らかい場合はそのままサラダに。茹でてからあえ物、おひたしに。他にも炒め物、天ぷらにも。花も食べられるので、サラダ、スープ、デザートに添えるのもよいと言われる。

(4)ドクダミ：

花が咲く前の5月あたりがおすすめ。下痢、便秘、胃腸病、皮膚病などに効く薬草。独特のにおいは加熱や乾燥で緩和。天ぷらやハーブに。乾燥したドクダミ茶はテトックス効果があるとされる。

1. 農業体験交流事業について

令和5年5月15日

(株)あびベジ：農業体験交流事業担当役員

鈴木 康仁

この事業は令和3年4月に発足し今年でまる2年になりました。

発足に至った経緯は、農事組合法人でスタートしてから12年目を迎え、直売所や農業経営が環境変化や諸問題に対応する必要上、経営資源や環境資源を活用して新たな事業活動に取り組み、直売所経営、農業経営の安定と地域貢献による活性化を目指し、新たなファンを作り、ひいては地域農産物の消費拡大を図ることを目的としました。

これまで9回の農業体験交流を行いました。この体験交流事業の特長は収穫体験だけでなく播種や苗の植え付けなども工程に入っています。野菜作りをより深く体験出来たり、スタッフによる野菜作りのコアな説明により、野菜に対する今までにない発見や特長を理解していただけます。また、周辺環境を活かした企画（手賀沼遊歩道でのオリエンテーリング、鳥窓見学、プラネタリウム見学）なども織り込んでいます。直売所ではバックヤードや店内加工室など店の裏側も見学していただけます。そして農家さんが野菜を搬入して店に並べるまでの工程を体験しながら見ることが出来たり、当日用意する弁当の製造工程なども見学できます。お昼のお弁当は芝生広場で周辺景色を見ながら出来立て・手作りの地産地消弁当を楽しめます。

この事業を行ってきた中で感じることは、子供たちが非常に生き生きと楽しみながら農業体験を経験し、この農業体験がその子の生涯の思い出となるであろうと思うと、非常に嬉しく、農業関係者としてやり甲斐を感じております。最後に、この事業の協力団体「あびこ型「地産地消」推進協議会」様、「全国農協観光協会」様、「(株)農協観光」様、「我孫子市農政課」様、そして料理研究家「渡邊美穂」先生のご協力のおかげで、ゼロから立ち上げたこの事業も無事に続けれられております。今後はまた、別の団体ともコラボしながら企画内容を進化させていきたいと思います。



3. 第20回定期総会について

総務部会長 小松 信彦

令和5年5月13日、当推進協議会の第20回定期総会が、あびこ市民プラザ・ホールで開催されました。昨年同様に集会形式での総会が、当日の会員出席者35名、委任状の提出者54名の合計89名にて会則により成立しました。開会宣言後、会則により齊藤会長が若王子副会長を議長に指名し議事進行しました。来賓代表として、青木副市長が協議会の活動について、コロナ禍にもかかわらず「援農ボランティア活動」の継続、「学校給食野菜搬送活動」などに対する謝辞を述べられ、また、新型コロナ感染症5類移行とワクチン接種について説明されました。本総会では、第1号議案：「令和4年度活動報告について」、第2号議案：「令和4年度収支決算報告について」、第3号議案：「令和5年度活動計画について」、第4号議案：「令和5年収支予算案について」、第5号議案：「令和5年度新役員の選出について」に関して審議いただきました。審議においては、「援農ボランティア活動において、農家の高齢化への支援など対策が必要では」との意見が提案されました。これについては、協議会の重要なテーマとして、運営委員会をはじめとする関係部会で協議、検討していく旨説明いたしました。その後、すべての議案が挙手多数により原案通り承認されました。その後、新役員の紹介を行い、総会は無事終了しました。総会後4年ぶりの会員懇親会が開催され、32名の参加を得て、和やかな懇親会が久しぶりに催され、我孫子産の野菜を使った㈱あびベジからの料理を味わいながら会員紹介などを含めて相互の親睦を深めました。



4. 会長挨拶

あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤 徳剛

去る5月13日に催された当協議会第20回定期総会は雨模様にかかわらず多数の出席のもと開催されました。皆様の明るいお顔にお会いできて大変うれしく思いました。その総会におきまして会長に選任していただきました齊藤徳剛です。20年間の活動経過を踏まえながら、上記総会で承認を得ました「令和5年度活動計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

近時は食品ロスや食料自給率問題が叫ばれ、農業の重要性に注目が集まっています。地域社会の活性化にも地産地消の考えは欠かせません。そして5月より新型コロナは第5類に移行し、市民活動も平常を取り戻しつつあります。当会も援農ボランティアや給食搬送事業活動のより一層の充実はもとより、地産地消関連のイベント活動も注意しながら再開していきたいと考えます。

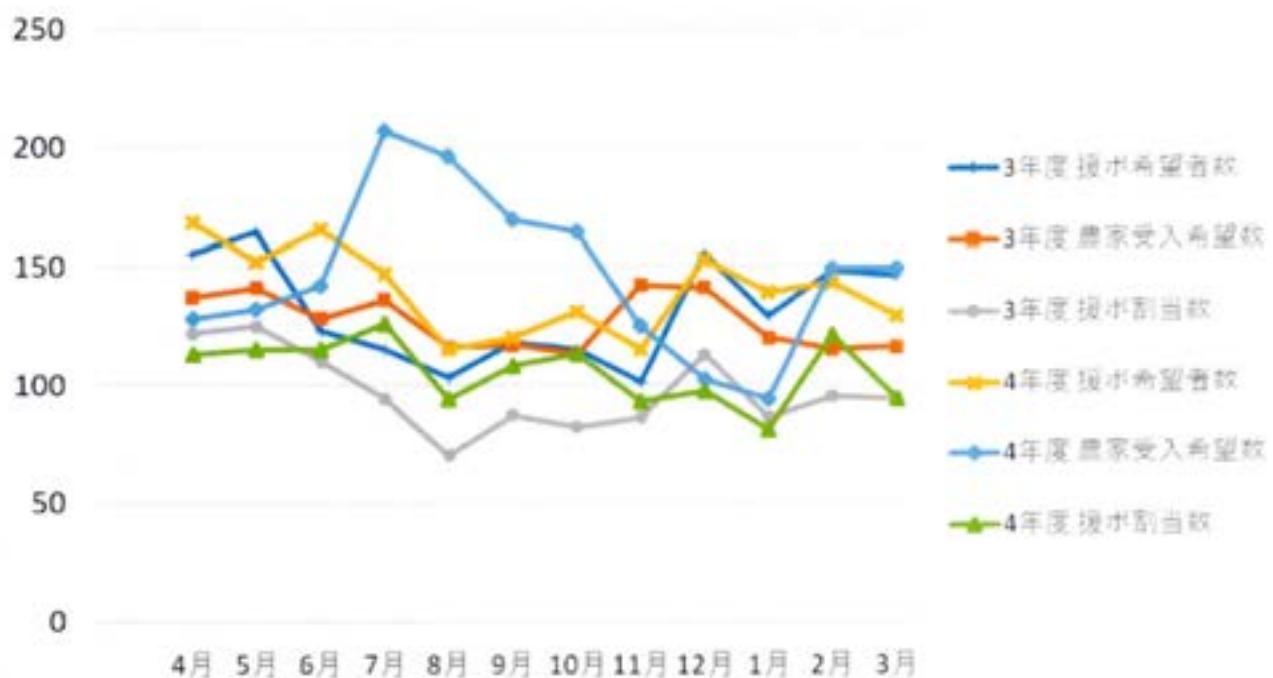
再度のお願いですが、エコ農産物普及推進部会の部会長が空席となっていて解消しなければならない課題となっています。興味のある方には是非、力を貸していただきたいと切に思っていますので事務局まで連絡をよろしくお願いします。

今後とも、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の継続と社会価値向上を目指したいと思いますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願ひいたします

2. 令和4年度援農ボランティア活動状況

援農ボランティア部会 石田 善久

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
3年度	援農希望者数	155	164	123	115	103	118	115	101	155	129	148	146	1,572
	農家受入希望数	137	141	128	136	116	117	113	142	141	120	115	116	1,522
	援農割当数	122	125	110	94	70	87	82	86	113	86	95	94	1,164
4年度	援農希望者数	168	152	165	147	115	120	131	115	153	139	143	129	1,677
	農家受入希望数	128	132	142	207	196	169	164	125	102	94	149	149	1,757
	援農割当数	113	115	115	126	94	108	113	93	97	81	121	94	1,270



令和4年度の状況について

- 援農希望者数は昨年度に比較し約100件の増加となった。
月ごとに見ると、ほぼ前年と同じような傾向であった。
- 農家受入希望数は昨年度に比較し200件超の増加となった。
夏季(7・8月)の増加は、新規受け入れ農家の加入と既存農家の特殊作業があったためと考えられる。
- 援農割当数は昨年度に比較し約100件の増加となった。
月ごとに見ると、前年を若干上回る状況が継続した。

5. 役員・実行委員一覧表

令和5年度 役員・実行委員等一覧

2023. 06. 13現在

役職名	氏名	実行委員等		
会長	齊藤 徳剛			
副会長	若王子 範文			
副会長	大炊 三枝子			
副会長	大井 一郎	環境経済部 次長兼農政課長		
総務担当	西田 集	農政課 地産地消係		
会計	西田 集	課長補佐 斎藤 寿義	係長 景山 雄一郎	
エコ農産物普及推進 部会長	空席	今村 直美	井出 史郎	和田 洋
		栗原 裕子	日暮 俊一	
食育交流部会長	須藤 一宏	香取 典男	八澤 静江	
			サポートー委員 相馬 英里	
援農ボランティア 部会長	井出 史郎	石田 善久	吉田 和子	
		(農家委員) 鈴木 順一	(農家委員) 阿曾 義弘	(農家委員) 相馬 伸年
学校給食支援部会長	中村 公一	関口 敏雄	小林 孝夫	梶繩 茂雄
		小野 静夫	志賀 幸夫	笹谷 克久
	学校給食 コーディネーター	折越 揭身	久島 幹雄	
広報部会長	若王子 範文	日暮 俊一	武井 伸勝	出口 一幸
		根本 奈央美		
総務部会長	小松 信彦	齊藤 徳剛	吉田 和子	
会計監事	小林 明弘			
会計監事	仲原 千津子			
事務局	小松 信彦			
	吉田 和子			

◆ 令和5年度 運営委員会 開催予定 毎月第2火曜日 15:00~17:00

会場:水の館 3F 研修室 (但し、4月度、7月度、10月度、1月度は本庁 和室大)

6. 副会長就任ご挨拶

あびこ型「地産地消」推進協議会 副会長
大井 一郎（我孫子市環境経済部次長兼農政課長）

4月の人事異動により農政課長となり、この度、あびこ型「地産地消」推進協議会の副会長に就任いたしました大井です。副会長に就任させていただき、大変光栄に思っております。私自身も地産地消の意義や重要性を理解し、これまでにも様々な取り組みをしてまいりましたが、今後は更に一層、我孫子市農業の発展に貢献するために尽力してまいります。

地産地消の推進は、市内の農林水産業の振興に繋がることはもちろんですが、同時に市内の経済や人口、そして文化を豊かにすることができる、非常に大きな可能性を秘めた取り組みであると考えております。市内の生産者と消費者が直接関係を持ち、生産者と消費者が相互に支え合い、共に発展していくような社会を目指すことが必要であると思います。

市では、令和5年3月に第2次あびこエコ農業推進基本計画を策定し、令和3年度から運用を開始した「あびこエコ農産物」を中心に、安全・安心な農産物の普及、地産地消の推進を図っています。現在、協議会にもご協力いただき、消費者が積極的に「あびこエコ農産物」を買うことで、生産者を応援する「あびこエコ農産物応援キャンペーン」を実施しています。認証シールを20枚集めて応募すると、当選者に野菜やお米をプレゼントする企画ですので、是非会員の皆様もご参加ください。

今年は、あびこ型「地産地消」推進協議会の設立20周年を迎え、援農ボランティア活動をはじめ多くの方々が様々な部会にて取り組んでいただいた活動に深く感謝するとともに、更なる発展に向けて副会長として努力していきます。

今後も協議会の皆様と協力し、地産地消を推進し、我孫子市の農業振興及び発展に貢献できるよう精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齋藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9:00～17:00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）



